

古代人が残した足跡、貝殻のビーズ

◆ゲノム解析だけでは分からない古代人の活動や文化

2021年9月、英国のボーンマス大学などの研究チームは、米国のニューメキシコ州で発見された古代人の足跡について、また、米国のアリゾナ大学などの研究チームは、モロッコ西部で発見された貝殻のビーズについて発表を行った。

ゲノム解析の高速化、低コスト化は、医療分野に革新をもたらしただけでなく、人類の歴史の研究にも、現代人のゲノムから推定される古代人の動き、古代人のゲノムから判明した複数の人類の混血の状況、環境ゲノムから分かる古代人の生活様式など、さまざまな形で新たな話題を提供している。最近の人類の歴史に関する研究発表には、ゲノム解析を活用したものが多いなかで、今回の発表は、どちらも、発掘調査の重要性を再確認させる研究成果であった。

◆米国のニューメキシコ州で発見された古代人の足跡

ボーンマス大学などの研究で発見された古代人の足跡は、2.1から2.3万年前のものだと推定され、これまで、北米大陸にベーリング海峡を越えて人類が移動してきたと考えられていた時期である1.6から1.7万年前をはるかに遡ることになる。年代の近い地層からマンモスの足跡も発見されており、この地域に人類が生息したのは氷河時代の出来事であったことが裏付けられた。最近のゲノム解析を用いた研究により、北米大陸での人類の移動は、北から南へ向かう流れだけでなく、逆の流れも推定されている。今回の発見は、その前提を揺るがすものである。

◆モロッコの西部の洞窟で発見された貝殻のビーズ

アリゾナ大学などの研究により洞窟で発見された貝殻のビーズは14.2から15万年前のものだと推定され、類似のものがアフリカの他の地域でも発見されているが、これまで発見されたもののなかでは最古のものである。最近のゲノム解析を用いた研究により、北アフリカには、まだ、遺跡が見つかっていない一群の人類が存在したと推定される。今回の貝殻のビーズの発見のように、その存在を裏付ける資料が出土することを期待したい。

【戸潤一孔】